

施策評価管理シート

2023(令和5)年6月作成

施策体系	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	3	市民文化の創造		
	施策	1	文化振興		

1. 施策の基本方針(目指す将来像)



- 文化遺産や地域資源を市民共有の財産として大切に保護し、次世代に継承します。
- 名張らしさあふれる魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちを目指します。
- 多様な文化資源を活用して、郷土に誇りと愛着が感じられるふるさとづくりを創造します。

2. 令和4年度の実行内容及びその成果



・文化振興事業として、名張市美術展覧会を総合福祉センターふれあいで開催しました。延べ191点の作品を展示し、2,074人の来場者がありました。(昨年比:作品数10点増、来場者277人増)また、多くの市民に関心を持っていただけるよう、会期中に関連事業として名張地域を周回するイベントや、体験教室等を開催することで、来場者の増加につなげることができました。また、9月~12月の期間中には、名張文化協会と連携して「市民文化祭」を開催し、各地域での文化事業が活発に行われるようにすることで、市民が文化発表をする場の提供と、文化に親しむ機会の創出を行いました。その中で、今年は文化協会主催のオープニングイベントが行われ、出演者270名、来場者400名の参加がありました。そのほか、県との連携事業として「みえ県展」を名張市武道交流館いきいきで開催し、5日間の会期中に1,172名の来場者がありました。同じく県との連携事業として、介護をテーマとしたワークショップ実施や介護演劇の上演も行いましたが、最終の演劇公演には、230名が来場する結果となりました。

・郷土資料館では、常設展示に加え、企画展を開催し、名張の歴史や文化等の魅力を発信しました。また、文化財指定・登録においては、住川家住宅主屋(新田)登録有形文化財への登録を進めるとともに、石造五輪塔(短野)を名張市指定文化財に指定し、新たな指定・登録に向けた調査を行い、貴重な文化財の周知に努めました。文化財の保存修理については、4か年にわたった県指定文化財・杉谷神社本殿の保存・修理事業が今年度で終了し、彩色復原図及び調査報告書が完成しました。

・特別天然記念物オオサンショウウオ緊急調査については、保護指導委員会の指導の下、特別天然記念物である在来種のオオサンショウウオを保護するため、チュウゴクオオサンショウウオとの交雑種の河川からの駆除を目的とした調査及び捕獲した交雑種の飼育を平成25年度から継続して行っており、10年間の緊急調査事業の成果をまとめた「オオサンショウウオ緊急調査報告書」を刊行しました。

・市史編さん事業については、現在「中世編」および「民俗編」について、市史刊行に向けて調査を継続して行っており、基礎資料が収集されつつあります。

・ふるさと能文化の振興として、観阿弥創座の地である名張市の能文化を守り継承するために、団体が活動する場と市民が能文化に触れる場の提供を行いました。前年度は新型コロナウイルス感染症の影響から中止となった「名張子ども伝統芸能祭り」を開催し、市内で活動する5団体、38名の子どもが出演しました。そのほか、美旗小学校の150周年記念事業の一環として、小波田地区で活動する「名張子ども狂言の会」会員による狂言の発表や、「名張市観阿弥顕彰会」と連携した「観阿弥祭」「名張能楽祭」を開催し、市民が「能文化」に触れる機会の創出に努めました。

・adsホール(青少年センター)は、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残る中ではありましたが、感染症の予防に配慮する工夫などをしつつ、利用者の増加に努めました。指定管理者による自主事業等を中心に事業を行う事で、利用実績は、前年度よりも47件増の149件、利用料収入が約226万円増の約829万円となりました。また、adsホール(青少年センター)の老朽化に伴う、自家発電用バッテリーの交換や、新型コロナウイルス感染症予防のために水栓の自動化工事を行うなど、より安全に快適に利用してもらえるように修繕を行いました。

3. 施策指標(目標)の達成状況



施策指標(目標)の内容(単位)		基準値(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	達成率
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	47.0	
	成果	44.0	42.7	40.0	37.8	37.5	39.0	0.0%
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の入場利用者数【延べ数】(人)	目標	-	-	-	-	-	568,000	
	成果	367,771	409,317	446,400	461,123	479,060	514,251	73.2%
美術展覧会出展数【延べ数】(点)	目標	-	-	-	-	-	2,975	
	成果	2,012	2,215	2,384	2,559	2,739	2,930	95.3%

4. 成果や施策指標の状況を踏まえた課題や現状の分析



- ・「市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合」の達成状況についても、若年世代から中間世代の文化芸術活動への参画が少ないことが影響していると考えています。今回の調査に回答した方のうち、18歳～59歳の割合が54.4%あります。それに対し、例えば市展へ作品を出品した方のうち、10代～50代が26.9%と低く、こういった層の参画率を上げることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合を上げていくことに繋がると分析しています。
- ・特別天然記念物オオサンショウウオ緊急生息調査においては、調査を継続することで、交雑種の割合を低く抑え、在来種を保護するという一定の成果があるものの、河川下流から他の河川への交雑種の流入が懸念されています。また、捕獲した交雑種の飼育については、飼育数の増加によって、さまざまな面において負荷が大きくなっています。
- ・市史編さん事業においては、前回の市史刊行から11年が経つため、現在活動中の「中世編」「民俗編」の刊行に向けた取りまとめが急がれます。
- ・文化資源の活用については、市民はもとより市内小中学校の学習に応じられるよう、教育センター等教育関連施設や郷土史研究者等の協力を得て、効果的な企画展等を実施する必要があります。
- ・文化振興事業への若者の参画が少なく、高齢化が進んでいます。市展の作品出品や、市民文化祭の発表の場などで、若年層の積極的な参画を促す必要があります。
- ・能をはじめとした古典芸能に取り組む団体の会員数が減少しており、新規の会員が集まりにくくなっています。会員を募集する工夫や、関心を高めるための施策が必要です。
- ・a d sホール（青少年センター）について、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更され、それに合わせた対応や、事業展開を行う必要があります。

5. 分析結果を踏まえた新総合計画推進に向けた施策の取組内容（令和5年度以降）



- ・観光、まちづくり等、多様な機会において、文化を核とした事業実施を行なえる仕掛けづくりを行うとともに、文化に触れる機会を創出することで、文化あふれる豊かなまちづくりに向けた取組を進めます。
- ・郷土資料館他、文化財関連施設の年間来館者数は、令和3年度と比較すると令和4年度は増加していますが、コロナ禍前の来館者数までは回復していません。今後、地域や関連団体、更には教育センター等関係機関と連携するとともに、展示の充実、広報の強化等を行い、文化資源の一層の活用に努めます。
- ・特別天然記念物オオサンショウウオ緊急生息調査については、生息調査指導委員会の指導のもと、引き続き特別天然記念物の保護に努めるとともに、隔離飼育している交雑種を活用した出前授業や郷土資料館での館内見学といった環境教育を進めます。
- ・市史編さん事業については、「中世編」「民俗編」の刊行に向けて、収集資料の整理を行うとともに、委員会を開催し、内容の調整および方向性の検討を推進します。
- ・名張市美術展覧会への若者による出品数を増やすために、市内高等学校美術部等に働きかけ、出品を促すとともに、若年層を対象とした賞を新設するなどの取組を進めます。また、名張文化協会と連携し、文化発表の機会に、若者が参画できるように、高校生の発表時間を作るなどの工夫をします。さらには、伊賀市文化都市協会にも協力を仰ぎ、文化施設を活用した展示などの新たな取組を進めます。
- ・名張市が観阿弥創座の地であることを市内外に継続的に発信し続けるとともに、能楽及び古典芸能などの文化を守り、市民の関心を高める取組を進めます。令和5年度は市制施行70周年であることから、記念事業として「名張能楽公演」を実施し、観世流能楽師である片山伸吾氏、長きにわたり名張市の子どもたちに狂言の指導をいただいている茂山七五三氏・宗彦氏に出演いただきます。また、文化庁の伝統文化親子教室事業助成金を活用し、小中学生を中心とした、子どもたちが和文化的体験をできる事業を開催し、伝統的な和文化に触れる場をつくると共に、関心を高め、会員数の確保に課題を持つ団体の会員獲得を図ります。
- ・a d sホール（青少年センター）については、過度な感染症対策は行わず、段階的に通常の運営形態へ移行する予定ですが、大人数が利用する施設であることから、状況を鑑みつつ、必要な対策は残して運営いたします。また、指定管理者と連携し、自主事業等の実施を促進するほか、コミュニティ助成を利用した事業の実施や、活用可能な助成金等を利用し、魅力的な文化ホールの運営を目指します。
- ・a d sホール（青少年センター）の運営継続のため、外壁もしくは道路側フェンス等への企業広告掲載を検討します。

施策を構成する主な事務事業

*R4決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

単位：千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和4年度内容	R4決算額	うち 一般財源
一般	郷土関連資料デジタルアーカイブ化事業	教育委員会事務局	図書館	郷土資料（文化財及び関連資料、図書資料）をデジタル化、データベース化しWeb上で公開を行いました。 ・「名張市デジタルアーカイブおきつも」サイトの公開 ・図書館情報システムにおける郷土資料館蔵書のデータベース化	33,317	1
一般	ふるさと能文化振興事業	教育委員会事務局	文化生涯学習室	古典文化を後世へ引き継いでいくための事業を行いました。特に、観阿弥ゆかりの土地として、能文化の継承・発展を推進すべく、名張市観阿弥顕彰会と連携した「観阿弥祭」「名張能楽祭」の開催、また、若い世代の発表の場として「名張子ども伝統芸能祭り」を行いました。	2,416	2,023
一般	オオサンショウウオ緊急調査事業	教育委員会事務局	文化生涯学習室	特別天然記念物である在来種を保護するため、保護指導委員会の指導の下、交雑種の河川からの駆除と捕獲した交雑種の隔離飼育を行いました。あわせて、10年間の緊急調査事業の成果をまとめた「オオサンショウウオ緊急調査報告書」を刊行しました。	2,522	1,085
一般	青少年センター改修事業	教育委員会事務局	文化生涯学習室	経年劣化により早急に改修が必要であった非常用自家発電機バッテリーの取替工を行いました。	1,265	365